

日本生協連

品質保証レポート2021

2020年度報告

～新型コロナウイルス禍での取り組みの記録～

目次

安全と安心のために	2
ご利用まで	4
ご利用してから	8
関連活動	11
全国の生協の連携	14



2020年度の活動報告にあたり ごあいさつ



くろかみ えいじ
日本生協連 品質保証本部長 **黒神 英司**

世界的に深刻な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症ですが、これに伴う社会情勢の変化は、日本生協連および会員生協の活動にも大きな影響をもたらしています。品質保証の活動面でも、巣ごもり需要の拡大を受けての供給伸長により、これまで年々減少傾向にあった商品のお申し出やお問合わせの件数も大幅な増加となりました。こうした背景から日本生協連商品検査センターでの検査実績も、お申し出検査が大幅に増え、件数としての構成比がトップになるなどの影響が出ています。

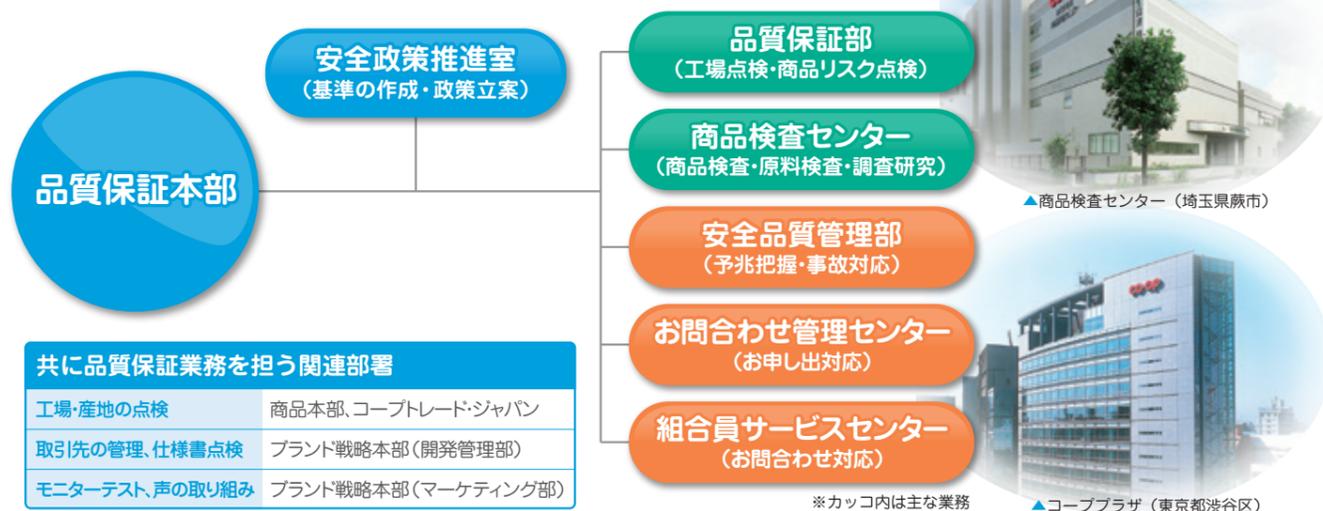
工場点検においては、海外への渡航が一切できなくなった他、国内においても商品事故を受けての緊急調査や、新規工場や新規ラインの採用可否を判断するためのものに絞り込むなど大きな影響が出ています。

本誌では、そうした例年とは状況が大きく異なる新型コロナウイルス禍での日本生協連の品質保証活動について報告するとともに、全国の会員生協の品質保証部門との連携した取り組みや活動実績についても掲載しています。生協全体の品質保証活動への理解を深めていただければ幸いです。

日本生協連とは

日本生協連は各地の生協や生協連合会が加入する全国連合会です。全国の生協の中央会的役割を担うほか、CO・OP商品の開発と会員生協への供給などの事業を行っています。日本生協連が供給するCO・OP商品は2021年4月現在5,455品、製造を委託しているお取引先は663社1,395工場です。

日本生協連 品質保証本部の体制



CO・OP商品の品質保証体系

ご利用まで

▶P4~7をご覧ください

CO・OP商品は、一つひとつの商品について、商品設計から組合員にご利用いただくまでを、独自の品質・安全管理の体系に基づいて管理しています。「商品の設計」「原材料の管理」「試作と初回生産」「商品の生産」「組合員のご利用」それぞれにおいて、重要な管理ポイントを設定し、商品設計の評価、原料点検・工場点検・検査などで確認します。



ご利用してから

▶P8~10をご覧ください

商品へのお問合わせはパッケージの表示や商品仕様の見直しにつなげ、お申し出はその原因を分析して、商品の品質改善や事故の予防に役立てます。重大な事故の発生時やその予兆がある場合は、全国の生協と連携して対応します。

関連活動

▶P11~13をご覧ください

日本生協連の品質保証部門は、CO・OP商品の品質保証を担うだけでなく、全国連合会として生協全体の品質保証についても向き合います。消費者と事業者の両面をもつ組織として、行政の施策や食品安全行政に積極的に関わるなど、幅広く活動しています。



組合員との
コミュニケーション

商品の安全や品質に関わるさまざまな情報を開示し、疑問や不安にお応えします。

商品検査

▶ 主管部署 商品検査センター

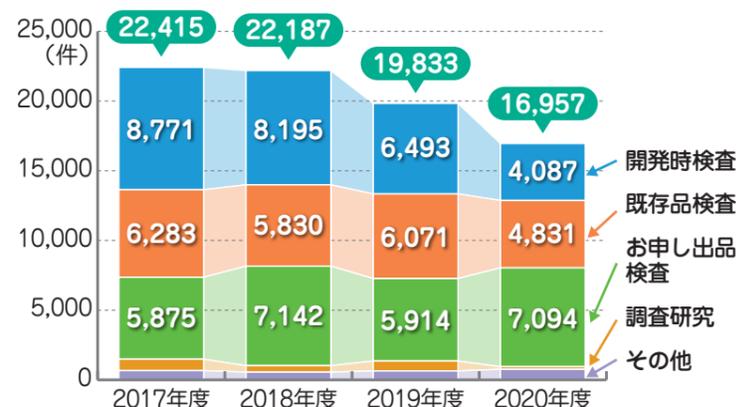
活動概要

日本生協連商品検査センターは、1972年の商品試験室設立以来、「組合員、消費者の安心できる暮らし」を実現するため、CO・OP商品の安全と品質を科学的に検証し、商品事業をサポートしています。

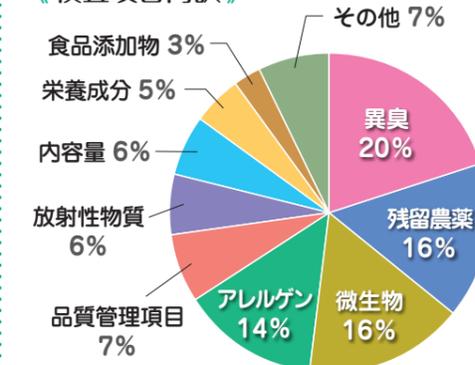
データで見る2020年度実績

検査のステージ	主な検査の役割	検査件数	割合
開発時検査	開発する商品について、工場の衛生管理、アレルゲンの管理、原材料の安全性などを確認します。また、栄養成分を分析し、栄養成分表示案を作成します。	4,087	24.1%
既存品検査	供給中の商品について、仕様通りの商品か、管理状態に問題はないか、確認します。	4,831	28.5%
お申し出品検査	お申し出品の危害性判断や異臭の原因物質の特定などを行います。	7,094	41.8%
調査研究	市販品の検査を行って、CO・OP商品の開発に活かします。	186	1.1%
その他	商品部門や会員生協からの検査依頼に対応します。	759	4.5%
検査件数合計		16,957	

《商品検査の件数推移》



《検査項目内訳》



2020年度は16,957件の検査を実施しました。商品の開発時およびお申し出の発生時に重点的に検査を行い、CO・OP商品の品質保証に取り組みました。CO・OP商品の供給伸長に伴い、商品のお申し出やお問合わせが増えたため、年々、減少傾向にあったお申し出品検査が増加に転じました。

TOPICS

その1 会員生協向けオンライン研修会（残留農薬検査、微生物検査、異臭検査）

新型コロナウイルス感染症対応のため、会員生協検査室の担当を対象とした技術研修会は、対面ではなくオンラインで開催しました。繊細な実験手技などが画面で伝わるのかという心配もありましたが、画面の方が手元がアップで見やすい、遠方の検査室の方も気軽に参加できるというメリットがあることがわかりました。これからも、対面とオンラインのそれぞれの良さを生かしながら、技術研修会、交流会開催を通して、検査室運営に貢献します。



▲画面越しに顔を合わせることができ、議論が進みました。 ▲細かい実験手技を、拡大して画面に映し、解説しました。

商品開発時のリスク点検

▶ 主管部署 品質保証部

活動概要

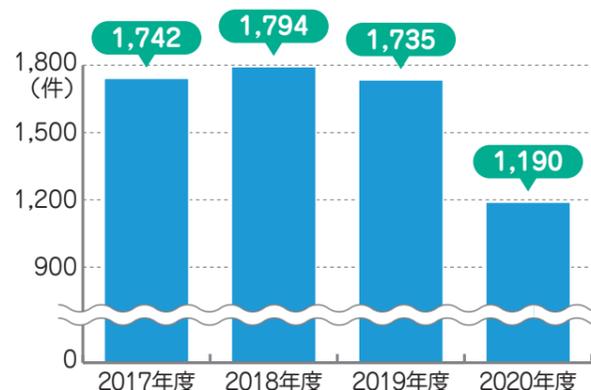
CO・OP商品を開発・リニューアルする際、その商品の安全性や、品質の面で問題となる可能性がある点を様々な角度から特定します。それらについて、関係者との協議・検証を進めながら、商品の発売までに一つひとつ確認しています。商品の安全性はもちろん、においや風味の劣化なども想定して対応します。

データで見る2020年度実績

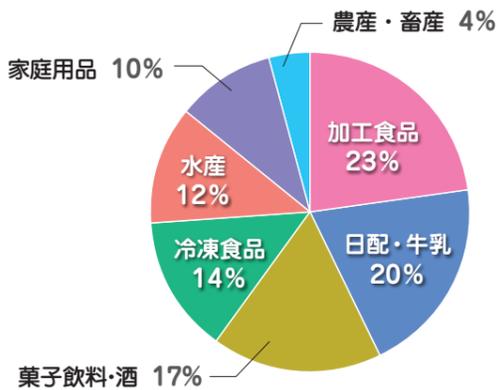
点検の確認ポイント

- ☑ 特定の微生物や化学物質、異物や異臭に対する対策
- ☑ 産地や品種を指定している原料の管理状況や品質は確かか
- ☑ 消費・賞味期限の科学的・合理的な根拠に基づく設定
- ☑ 誤使用などにより思わぬ事故を誘発しないか

《リスク点検の件数推移》



《商品分類内訳》



2020年度は、開発・リニューアルしたCO・OP商品について、年間で1,190件のリスク点検を実施しました。コロナ禍で工場点検が制限され、実地での評価が難しい中、工場点検担当者との連携を取りながらリスク評価を進めました。なお、開発・リニューアル数が減少したことにより、リスク点検件数も例年と比較し減少しました。

TOPICS

その1 オンライン会議を取り入れたリスク点検業務

リスク点検の担当者は、毎月、商品本部が開催する商品開発検討会議に参加し、開発・リニューアルするCO・OP商品の情報を確認して、リスク点検を進めます。2020年4月の緊急事態宣言以降は、会議室に多くの職員が集まるのを避けるため、商品開発検討会議や、その後に品質保証部で開催するリスク評価会議を、実参加とリモート参加の複合開催とするなど、新しい形で必要な協議、品質確認を継続できるようにしました。



▲リスク評価会議の様子。参加者の半数はオンラインで参加しています。

工場点検

▶ 主管部署 品質保証部

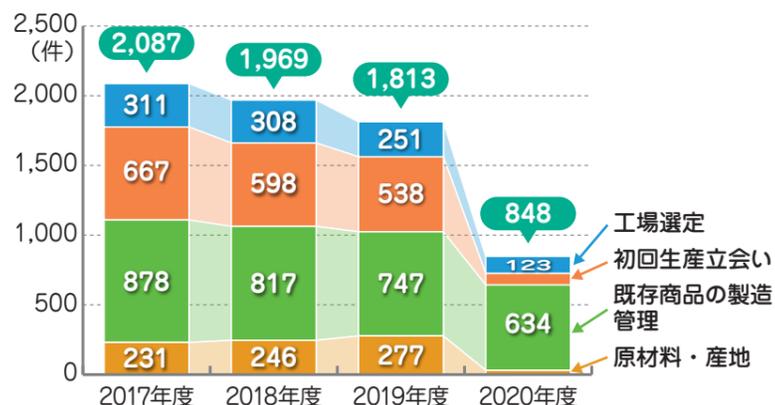
活動概要

CO・OP商品の製造を委託している工場について、目的に応じて品質保証部門と商品部門が協力、分担して点検を実施します。点検で見つかった問題点は工場改善に取り組んでいただき、その結果を確認しています。

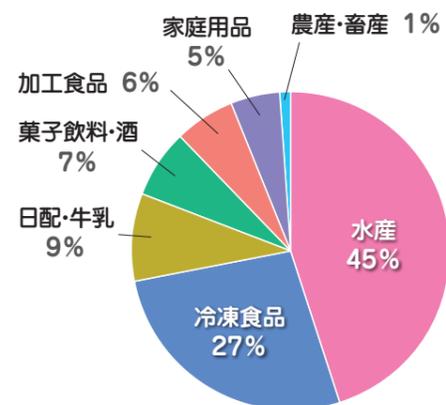
データで見る2020年度の活動実績

点検の確認ポイント	点検の種類	主な点検の役割	点検件数	割合
✓ 施設・設備	工場選定	CO・OP商品の製造を委託できる工場が確認します。	123	14.5%
✓ 基礎衛生	初回生産立会い	決めたルール通りに製造できているか確認します。	82	9.7%
✓ 従業員	既存商品の製造管理	供給中の商品を生産している工場の管理を確認します。	634	74.8%
✓ 原材料・資材	原材料・産地	原料の生産管理状態や産地の収穫工程を確認します。	9	1.0%
✓ 製造工程管理	点検件数合計		848	
✓ 検査・記録				

《工場点検の件数推移》



《商品分類内訳》



毎年の計画に基づいて実施する定期点検については、2020年度の計画は、コロナ禍のためすべて中止となりました。また、初回生産立会いを中心に、お取引先に代理点検を依頼するなどして対応しました。その結果、日本生協連の職員による工場点検実施数は、848件（前年比46.8%）となり、昨年と比べて大幅な減少となりました。

TOPICS

その1

品質担保のための工場点検の実施

工場点検が計画通りに実施できない中、CO・OP商品を安定的に、安全に生産し供給できるように、工場点検を継続するための手法について検討しました。渡航が制限された海外の新規工場を選定する際には、事前にその工場の資料、画像や動画を入手して確認し、海外現地職員の実査、現地工場とのオンライン協議など、複数の手法を組み合わせることで、新規選定を実現しました。

6月末に緊急事態宣言が解除された後は、品質保証部の国内工場の新規選定点検を再開するとともに、お申し出対応に関連した点検など、必要に応じて工場を訪問しての点検を実施しました。



▲オンライン会議で包材の状態を確認している様子。

原材料管理・原材料点検

CO・OP商品に使用する原料のうち、原料の産地や品種を指定している商品は、仕様書どおりの原料を安定して確保できることを確認したうえで商品開発を進めます。特に産地や品種にこだわった原料は「特別管理原材料」として、取り扱いの管理を強化しています。

特別管理原材料については、毎年、原料工場や産地の点検を計画的に実施していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、計画していたすべての点検を延期としました。原料調達ルートの確認は、対象の1,061件について、例年通り実施し、問題ないことを確認しました。

原料の検査は、1,260件実施しました。特別管理原材料以外の原料も含め、加工前の原料（農畜水産物）で必要に応じて実施しています。



▲原料の産地や品種を指定している商品の例。原料管理の確認が欠かせません。

原材料の検査（特別管理原材料以外の原料も含む）	件数
残留農薬検査	590
重金属検査	166
動物用医薬品検査	189
GMO（遺伝子組換え作物）検査	24
その他の検査（食品添加物、自然毒、アレルギーなど）	291
検査件数合計	1,260

輸入品の管理

輸入品は、製造国の状況や新たな食品安全・品質に関わる問題を踏まえて、管理方針を毎年見直し、品質管理の強化に取り組んでいます。

特に日本生協連が直接の輸入者として輸入を行っている商品は、貿易子会社（㈱コープトレード・ジャパン、以下CTJ）と共に管理を行っています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、海外への渡航が制限され、品質保証部の職員が工場点検のため工場を訪問することができなくなりました。CTJ海外事務所の職員も、お取引先の工場を訪問して生産に立ち会って品質を確認することが難しくなりました。そのため、CTJバンコク事務所では、工場から製品サンプルや製造記録を取り寄せ、事務所で検品を実施しました。また、オンライン会議を利用して工場との打ち合わせを行い、製品の確認をするなど、新たな手法も取り入れて品質確認を進めました。

品質保証部とCTJでは月次で品質協議を開催し、工場の状況や、商品開発作業の進捗についての確認を強化しました。



▲CTJバンコク事務所での、鶏肉加工品の検査の様子。



▲CTJとの品質協議の様子。

お問い合わせ対応

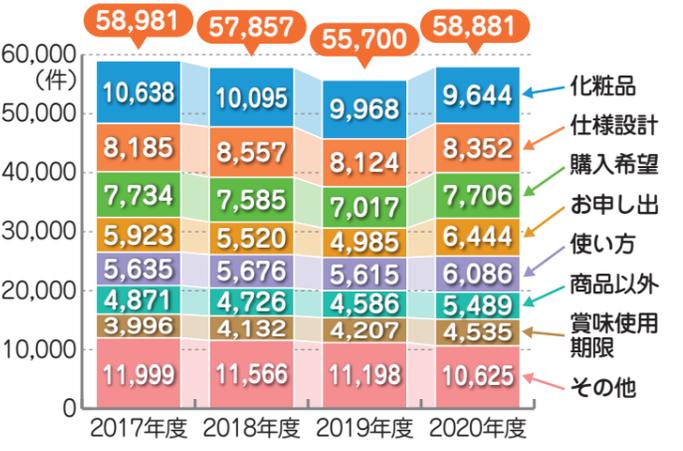
▶ 主管部署 組合員サービスセンター

活動概要

CO・OP商品のパッケージには、組合員サービスセンターの連絡先を明記しており、全国の組合員からの商品に関するお問い合わせを、主に電話で受け付けています。商品の仕様設計や購入に関すること、意見要望など、多岐にわたるお問い合わせにお応えしています。

データで見る2020年度実績

《お問い合わせ対応の件数推移》



《「声」の記録活用件数推移》



2020年度は58,881件のお問い合わせをいただきました。CO・OP商品の供給伸長により、年々減少傾向にあったお問い合わせ件数が増加しました。お問い合わせの理由や利用時の状況などを深掘りして伺うことができた17,432件の声について、商品の見直しや商品開発のためのデータとして活用させていただきました。

TOPICS

その1 **新しい受電システムを導入しました**

これまでは電話回線がなければ受電ができませんでしたが、新受電システムを導入したことで、インターネット回線があれば場所を選ばずに、どこでも受電業務を行うことができるようになりました。

▲【新受電システムの画面】受電状況や通話モニタ、通話記録の確認などができます。

その2 **本部（渋谷）と検査センター（埼玉）にて受電を行いました**

計画運休や感染症拡大の局面において、コーププラザではない場所で受電業務を継続して行うことができる環境の構築を進めました。2020年度下期より、コーププラザと商品検査センター、在宅で分散して受電業務を実施できるようになりました。コーププラザでは、職員同士の一定距離の確保やアクリルパネルを設置するなどの感染対策を徹底して受電業務を継続しました。

▲人と人とのスペースの確保。飛沫防止など細心の注意を心掛けて受電を行っています。

お申し出対応

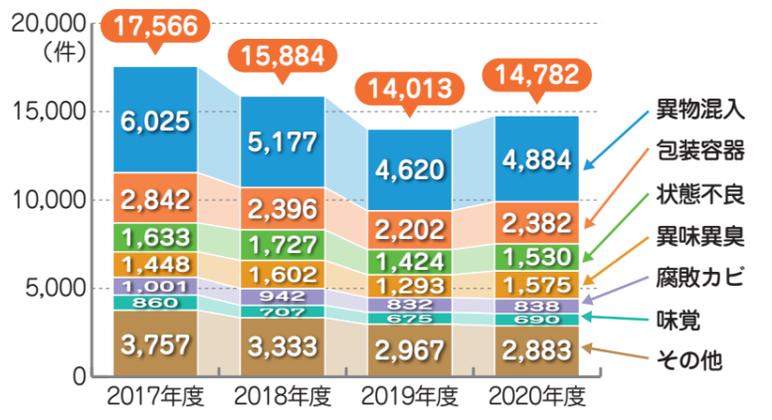
▶ 主管部署 お問い合わせ管理センター

活動概要

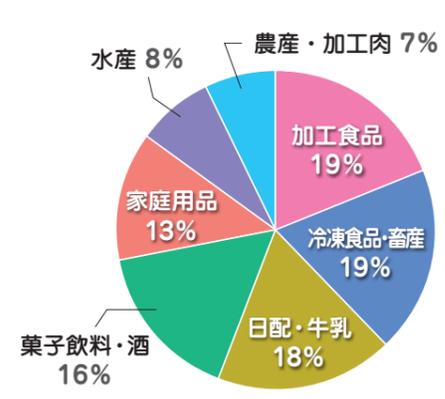
商品の不具合・不良のご連絡をいただくことを「お申し出」と呼んでいます。お問い合わせ管理センターでは、全国の会員生協を通じて、組合員から寄せられるCO・OP商品のお申し出を受け、お取引先に調査・改善を依頼し、結果を会員生協・組合員にお答えしています。

データで見る2020年度実績

《お申し出対応の件数推移》



《商品分類内訳》



2020年度のお申し出対応件数は14,782件（前年比105.5%）でした。2016年度から2019年度まで減少傾向でしたが、CO・OP商品の供給伸長に伴ってお申し出も増加しました。

《お申し出品検査の実施件数》

検査の種類	件数	割合
異臭検査	3,357	47.3%
農薬検査	1,966	27.7%
微生物検査	751	10.6%
その他	1,020	14.4%



▲異臭検査では機械と人の鼻の両方で検査を行います。

POINT!
異味異臭のお申し出品は、商品検査センターとお取引先の両方で調査と検査を行います。それ以外のお申し出も内容・状況に合わせて検査を実施し、原因究明や改善につなげています。

TOPICS

その1 **緊急事態宣言下でもお申し出対応を継続**

2020年4月の緊急事態宣言下で、全国からのお申し出が急激に増加しました。お問い合わせ管理センターでは、コーププラザに出勤する職員の数を減らしながらも、他部署からのサポート職員を配置したり、一部の業務を在宅勤務でも実施できるように手順を変更するなどして、受付業務や回答業務が継続できるように工夫し、対応しました。

▲職員同士の距離を取りながら、お申し出品の受付業務を進めました。

予兆の把握、事故対応、原因究明

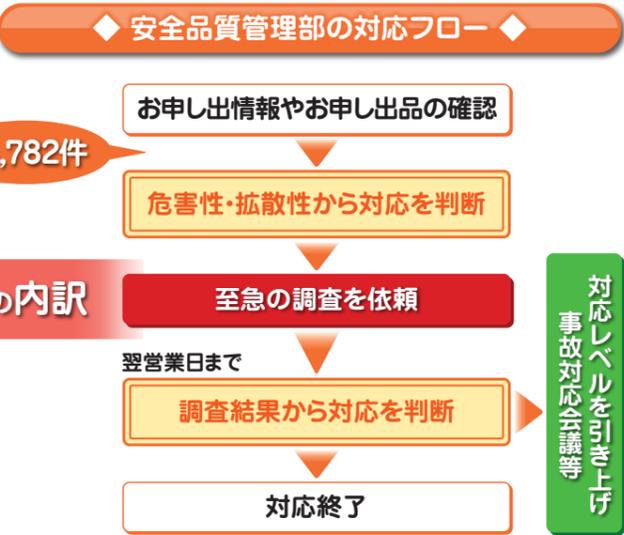
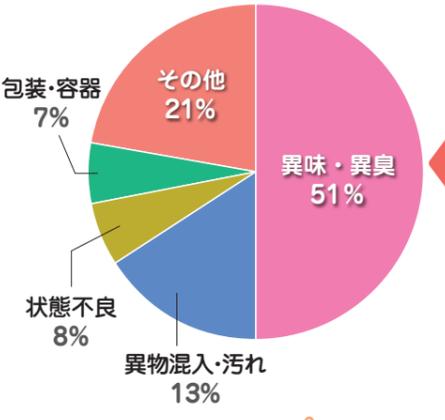
▶ 主管部署 安全品質管理部

活動概要

過去の商品事故の教訓から、組合員からのお申し出は安全品質管理部が全件を確認し、危害性（人体や物に危害を与える程度）や拡散性（発生の頻度や範囲）を判断しています。重大商品事故発生時には、被害の拡大を防止するための指示を出す司令塔の役割を安全品質管理部が担い、徹底した原因の調査や対策の指揮をします。

データで見る2020年度実績

《至急の調査をしたお申し出の内訳》



2020年度は2,941件のお申し出について、至急の調査が必要と判断し、対応しました。全体のお申し出件数の増加の影響を受け、至急の調査が必要と判断した案件も前年度より450件余り増加しました。

TOPICS

その1 **だしパックの検品**

だしパックで異物混入のお申し出の発生事例がありました。拡散性を評価するための検品作業は、作業員間の距離を充分確保した上で行いました。あわせて、工場の点検を行い、製造工程における異物混入の可能性のあるポイントを絞り込み、有効な対策をとることができました。

▲検品をしている様子。

▲一袋ずつ丁寧に確認しました。

その2 **異臭のお申し出への対応**

かぼちゃを使った製品でカビ臭のお申し出の発生事例がありました。過去の調査結果より、土壌由来の臭気物質が、かぼちゃの生育過程で移染したと推定し、早期に対策をとることができました。コロナ禍の取り組みとして、工場向けにオンラインで臭気の学習会を行い、かぼちゃ使用時の官能検査の精度向上に貢献しました。

▲オンラインでの学習会の様子。かぼちゃに臭気物質を添加したものを同時に嗅ぎ、TVモニターを通して双方の評価をすり合わせました。

安全政策

▶ 主管部署 安全政策推進室

活動概要

日本生協連は政府審議会などへ積極的に関わることで、食品安全行政に意見を反映するとともに、情報をいち早く詳しく入手して検討・評価・対応をし、全国の会員生協に発信しています。消費者と事業者の両方の立場で意見・提案をし、日本の食品行政全体の施策改善に貢献していきます。

日本生協連の消費者行政・食品安全に関する政府審議会等への参加状況 2021年4月現在

内閣府	農林水産省
食品安全委員会 企画等専門調査会 研究・調査企画会議	農業資材審議会 飼料分科会 リスク管理検討会
厚生労働省 食品衛生分科会 食品衛生分科会添加物部会	安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業（課題解決型プロジェクト）運営委員会 新JAS規格検討会 国際植物防疫条約に関する国内連絡会
薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会食品規格部会 食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会 薬事分科会動物用医薬品等部会	農林水産省／厚生労働省／消費者庁 コーデックス連絡協議会
食品衛生管理に関する技術検討会 食品の営業規制の平準化に関する検討会 食品衛生法改正事項実態把握等事業実施団体選定審査委員会	<p>💡 どんなことをやっているの？ ~食品衛生管理に関する技術検討会~</p> <p>食品衛生法の改正により、食品事業者はHACCP（ハサップ、衛生管理方法の名称）に沿った衛生管理を実施することになりました。この会議では、業界団体ごとに策定した衛生管理の「手引書」の内容を確認し、助言などを行っています。</p>

日本生協連から行政機関に提出した 食品安全・食品表示・消費者行政（食品分野）に関する意見書・要望書

行政機関が政策の立案などを行おうとする際には、その案を公表して広く意見募集を行い、提出された意見を考慮して最終的な意思決定を行います。日本生協連は、食品に関する行政の制度をよりよくするため、関連省庁が実施している意見募集に対して積極的に意見を提出しています。

2020年3月21日～2021年3月20日

提出先	提出日	意見書タイトル
消費者庁	2020年 5月25日	「消費者基本計画工程表」素案に関する意見
内閣府食品安全委員会	2020年10月27日	「キチングルカンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)」について
内閣府食品安全委員会	2020年11月17日	「亜硫酸水素アンモニウム水に係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)」について
厚生労働省	2021年 2月16日	2021年度(令和3年度)輸入食品監視指導計画(案)に対する意見

詳しくは日本生協連ホームページの「日本生協連からのお知らせ・ニュースリリース」内「政策提言」のページをご覧ください。URL <https://jccu.coop/info/suggestion/>

日本生協連 政策提言

2020年度の関連活動

Check! コロナ禍での業務継続のための活動

新型コロナウイルス感染者が発生してしまった場合に、速やかに職場を消毒し、新たな感染者を出さずに業務を継続するため、「職場環境の消毒手順書」を関連部署と連携して作成しました。あわせて、消毒作業に必要な防護メガネ、スプレーボトルなどの消毒資材を手配するとともに、手順書に沿って消毒作業の訓練を行い、作業手順動画を作成し、有事に備えました。この手順書は、全国の会員生協にも提供し、活用いただきました。

また、「国際学術団体が公表した、新型コロナウイルスと食品の安全に関する見解文書の翻訳」や、「次亜塩素酸水を有効成分とする製品の取扱いや広告における留意点のまとめ」を作成して会員生協に情報提供しました。



消毒作業の訓練風景。感染予防のための防護服の着用方法手順も確認しました。

Check! お取引先とオンラインで学習会 ～品質管理研究会 特別配信企画～

日本生協連のお取引先による自主団体である「日本生協連虹の会」の品質管理研究会（事務局は日本生協連品質保証部）では、毎年「品質管理研究交流会」を開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン形式での学習会を企画し、2021年2月19日に配信しました。学習講演として「ウィズコロナ時代の安全な商品の安定調達と供給」と題し、北海道大学名誉教授・（一財）日本食品分析センター顧問の一色賢司氏にご講演いただきました。また、お取引先2社から品質改善などについての事例報告をいただきました。



コーププラザからの配信の様子。

講演いただいた一色賢司氏。新型コロナウイルスの基礎的な知識や、製造現場管理の要点などについて解説いただきました。



Check! 外部からの助言・評価をいただく仕組み ～品質保証評価委員会～

日本生協連の「商品の安全と品質を管理する仕組み」の運用状況を監視するという位置付けで、外部の有識者を委員とした「品質保証評価委員会」を設置し、品質保証体系の改善に役立てています。今回は、一部の委員はオンラインで参加いただいたの開催となりました。1年間の品質保証の取り組みを報告し、幅広い助言をいただきました。



会議中のコーププラザの会議室の様子。

Check! 組合員や社会の不安にこえて ～放射性物質検査・調査～

2011年度から開始した、CO・OP商品の放射性物質検査と、一般家庭（生協組合員）の食事に含まれる放射性物質の量の調査は、2020年度で継続10年目を迎えました。

◆ 家庭の食事からの放射性物質摂取量調査

2020年度は、全国の17都県の生協組合員176家庭から、実際の食事2日分を提供していただき、会員生協の検査室と協力して、放射性物質の量を調査しました。調査したすべての食事で、検出限界以上の放射性セシウムは検出されませんでした。また、例年みやぎ生協・コープふくしまで開催されていた学習会をオンラインで開催し、調査の意義や結果などを報告しました。

◆ 東日本大震災を忘れないつどい ～3.11から10年～

2021年2月19日に「東日本大震災を忘れないつどい～3.11から10年～」と題した、震災の記録と記憶を振り返るイベントがオンライン配信されました。日本生協連も、みやぎ生協・コープふくしまの組合員理事の方と共に、当時の様子や摂取量調査の10年間の取り組みを報告する動画を作成しました。

◆ 取り組み開始から10年を振り返って

10年間の取り組みをパンフレットにまとめました。全国の会員生協と組合員の皆様のご協力により、共に調査を継続することができました。調査に参加した方からは「とても安心して食べられるようになりました。」「あらためて放射性物質について考え、家族で話し合うことができました。」といった感謝のお言葉もいただきました。しかしながら、今なお不安や関心をお持ちの組合員もいるため、今後は期間や件数を固定しない方式に切り替えながら、要望に応じて調査を継続していきます。



例年みやぎ生協・コープふくしまで開催していた「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」の学習会を、オンラインで開催しました。



「東日本大震災を忘れないつどい」で報告する動画を商品検査センターで撮影しました。



二次元コードからアクセス頂けます。



パンフレットは日本生協連コーポレートサイトからご覧いただけます。

Check! 異物分析講習会の開催

お申し出の中で、最も件数が多い異物混入についての知識を深める目的で、オンラインで講習会を開催しました。食品中の異物分析の流れから、分析結果の見方、考え方、最新の混入時期推定分析手法（いつ、どこで混入したかを推定する手法）について、講師をお招きし、講演いただきました。



24生協74名が参加し、学習しました。

全国の生協の連携

日本生協連と会員生協の連携した品質保証活動

日本生協連と全国の生協は、連携して商品の安全・安心を守る品質保証活動に取り組んでいます。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、地域間の往来などが制限されてしまいましたが、オンライン会議などを活用し、連携した取り組みを進めました。

安全・品質協議会の設立

生協の商品事業に関連する日本生協連の商品基準や、生協全体の安全・品質・表示について専門的な議論を行っていた「安全・品質小委員会」を「安全・品質協議会」に再編し、2020年12月に第1回を開催しました。

2021年度からは、「品質保証連携強化委員会」を統合し、商品の安全性、表示に係る事項、行政の政策に対する検討、お申し出対応、商品管理、工場・施設管理などの品質保証に係る事項、生協としての基本方針や考え方の整理、業務プロセスの標準化、品質管理担当者の人材育成、関連情報の共有・分析・活用など、品質保証に関わる幅広い内容を協議する場としていきます。



▲第1回の会議の様子。オンラインで協議しました。

品質保証連携強化委員会

品質保証連携強化委員会は、全国の品質保証活動の連携を一層進めるため、理事会専門委員会として2017年に設置されました。委員会のもとに、「検査共同」、「工場・店舗点検」、「お申し出対応」の3つの作業部会を設け、各分野で連携強化のための取り組みを進めてきました。2021年度からは、安全・品質協議会に統合します。各作業部会で取り組んできた課題については、安全・品質協議会にて内容を精査したうえで、品質保証活動をより強化していく取り組みへと発展させていきます。

◎工場・店舗点検作業部会 ～2020年度の活動～

2020年度は、開催方法を文書開催、オンライン開催等工夫しながら議論を実施し、「生協の宅配における衛生管理をまとめたガイドライン」を作成しました。また、ガイドラインと共に改正食衛法の対応に役立つ関連情報をまとめたウェブサイトを開設しました。



▲ガイドライン(左)と会員制の情報ウェブサイト(右)

◎検査共同作業部会 ～2020年度の活動～

検査業務について、標準版となる検査手法の検討や検査用資材の共同調達、人材育成に取り組んでいます。2020年度は『検査ガイドライン』の改定や、新任担当研修やオンライン学習会の開催、検査についての動画などの教育ツールの提供に取り組みました。また、消耗備品の共同調達は対象品を拡大しました。



▲新任担当者研修の様子。

◎お申し出対応作業部会 ～2020年度の活動～

「お申し出対応業務ガイドライン」の改定をしました。また、お申し出対応演習を12生協48名で実施し、全国で同一工場・同一内容のお申し出が発生した際に迅速に情報を共有、「お問合わせ管理システム:クイックプロII」を活用して対応することを確認しました。



▲全国の生協での演習風景。

全国の生協の活動実績

▶2020年度の実績

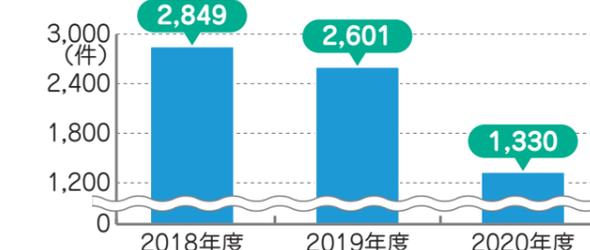
商品検査	159,056件	日本生協連は主にCO・OP商品の検査を、全国の会員生協は各生協で取り扱うナショナルブランド(NB)商品、会員生協のプライベートブランド(PB)商品、産直・生鮮品、店舗で調理する惣菜などの検査を実施しています。
工場点検	1,330件	日本生協連は、CO・OP商品の製造工場の点検を実施しています。全国の会員生協は、各生協で取り扱うNB商品、会員生協PB商品などの製造工場について必要に応じて点検を行っています。
店舗点検	1,408件	全国の会員生協は、自生協の店舗の衛生点検を実施しています。
お申し出受付	139,687件	日本生協連では、全国の生協と連携して組合員から寄せられるCO・OP商品についてのお問合わせ・お申し出に対応しています。全国の生協では、各生協のPB商品やNB商品などのお申し出にも対応しています。

▶3年間の推移

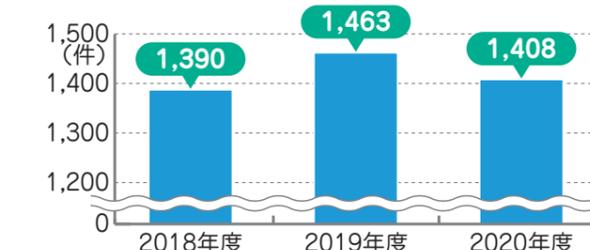
◆商品検査件数



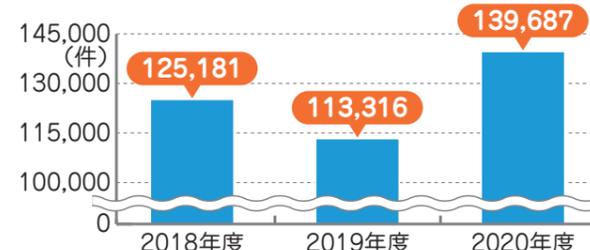
◆工場点検件数



◆店舗点検件数



◆お申し出受付件数



▲全国の生協の品質保証活動実績数値は、安全・品質小委員会および品質保証連携強化委員会に参加している13生協(事業連合と単一生協)と日本生協連の実績を合わせたものです。

会員生協の取り組み

…高校・大学向けオンライン授業の開始

コープデリ商品検査センターでは、2021年1月に埼玉県内の高校・大学へオンラインでの授業を行いました。参加した学生の皆さんは、動画で見学通路からの検査の様子を見学し、検査や食の安全への取り組みについてのクイズ形式での学習や、簡易実験などを行いました。オンラインを活用し、双方向で学ぶプログラムで食の安全を学ぶ場を提供しています。



検査施設の説明を撮影し、配信しました。

…はかるたいせつラジオで、食に関する正しい情報を提供

コープこうべ商品検査センターでは、ラジオ関西「コープ・スコープ はかるたいせつ」のコーナーで、商品検査センターの取り組みや「はかるたいせつプロジェクト」の内容についてお伝えしています。2020年度は、食中毒予防、消費期限と賞味期限について、農業に関する疑問解説などを放送しました。ラジオを通じて、食の安全に関する正しい情報を提供しています。



放送の様子は、コープこうべ商品検査センターHPをご覧ください。



日本生協連 ホームページのご案内

LET'S ACCESS!



日本生協連 コーポレートサイト

URL <https://jccu.coop/>

日本生協連全体のホームページ。日本生協連が提出したパブリックコメント等の意見書や食品の安全に関するQ&Aもご紹介しています。

日本生協連 コープ商品サイト

URL <https://goods.jccu.coop/>

CO-OP商品のホームページ。お問合わせを受けて改善した事例や商品のQ&A、商品検査センターについて紹介しているほか、各商品の詳細情報が調べられる検索ページもあります。

品質保証レポート、関連コンテンツのご紹介

P.5

商品検査センターのページ

商品検査センターのページには、検査の様子や安全に関する情報が掲載されています。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コーポレートサイト▶コープ商品▶食の安全の取り組み
コープ商品サイト▶知る▶安全と安心のために

P.11

政策提言（意見書等）

政策提言（意見書等）のページには、最新の提言やニュースリリースが掲載されています。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コーポレートサイト▶日本生協連からの
お知らせ・ニュースリリース

P.8

コープ商品のQ&A

コープ商品のQ&Aページには、食品の安全性に関するお問い合わせの回答が掲載されています。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コープ商品サイト▶お問い合わせ

P.13

食品中の放射性物質問題について

食品中の放射性物質問題への日本生協連の対応について、最新の取り組みや検査の様子を掲載しています。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コーポレートサイト▶コープ商品▶食の安全の取り組み

P.8

組合員の声に応えて

組合員の声に応えてのページには、最新の改善事例や商品情報を掲載しています。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コープ商品サイト▶創る

商品の詳細情報（添加物・産地等）

コープ商品情報検索サイトのご紹介。食品、日用品、化粧品などの詳細情報を検索できます。QRコードからアクセス可能です。

二次元コードからアクセス!

コープ商品サイト▶知る▶安全と安心のために

作成協力
生協

コープさっぽろ／コープ東北／みやぎ生協・コープふくしま／コープデリ連合会／東都生協／ユーコープ／パルシステム連合会／東海コープ／トヨタ生協／コープ北陸／コープきんき／コープこうべ／コープCSネット／コープ九州